平成２３年社会生活基本調査

生活行動に関する結果

（概要）

**１．学習・自己啓発・訓練**

千葉県内に住んでいる10歳以上の人のうち、過去１年間に何らかの「学習・自己啓発・　　　訓練」を行った人は210万8千人で、行動者率は37.7%となっている。これは全国平均の35.2%を上回るものの、前回調査の平成18年と比べると2.4%の減少となっている。行動者率は女性　よりも男性の方が高いが男女とも平成18年より減少しており、男性の減少率が大きいことから　男女差は縮小している。〔表１〕

　　表１　「学習・自己啓発・訓練」の行動状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | 10歳以上推定人口　（千人） | 行動者数　（千人） | 行動者率　（％） |
| H23 | H18 | 増減 | H23 | H18 | 増減 | H23 | H18 | 増減 |
| **総数** | **5,584**  | **5,436**  | **148**  | **2,108**  | **2,182**  | **-74**  | **37.7**  | **40.1**  | **-2.4**  |
| 男 | 2,783  | 2,717  | 66  | 1,057  | 1,131  | -74  | 38.0  | 41.6  | -3.6  |
| 女 | 2,801  | 2,719  | 82  | 1,051  | 1,051  | 0  | 37.5  | 38.7  | -1.2  |
| 男女差 | -18  | -2  | -16  | 6  | 80  | -74  | 0.5  | 2.9  | -2.4  |

　　　（参考）行動者率の全国順位

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | １位 | ２位 | ３位 | 千葉県の位置 | 全国平均 |
| 平成23年 | 東京都 | 44.7% | 神奈川県 | 42.1% | 滋賀県 | 39.2% | ６位 | 37.7% | 35.2% |
| 平成18年 | 東京都 | 43.8% | 神奈川県 | 43.4% | 奈良県 | 40.9% | ４位 | 40.1% | 35.2% |

年齢階級別に「学習・自己啓発・訓練」の行動者率をみると、10～14歳、15～24歳で49.1％と最も高くなっている。平成18年と比較すると、75歳以上で9.5%と最も増加しており、35～　　44歳で11.5%と最も減少している。〔図１〕

これを男女別にみると、最も割合が高いのは、男性が15～24歳の47.4%、女性が10～14歳の55.4%であり、最も低いのは、男女とも75歳以上（男性29.3%、女性20.2%）であった。平成　　18年と比較すると、最も増加しているのは男女とも75歳以上であり（男性7.6%、女性10.6%）、最も減少しているのは、男性が35～44歳の17.6%、女性が25～34歳の7.7%であった。〔図２〕





「学習・自己啓発・訓練」の種類別の行動者率を男女別にみると、男性では平成18年と　　同じく「パソコンなどの情報処理」が最も高い（16.5%）が、女性では平成18年に最も高かった　「家政・家事」が12.3%に減少し、「芸術・文化」の13.1%が最も高くなっている。〔図3-1・3-2〕





「学習・自己啓発・訓練」の種類別の１年間の平均行動日数をみると、「家政・家事」が　　108.8日と最も多い。平成18年と比較すると、全ての種類で平均日数が増加しているが、中でも「家政・家事」は30.2日と最も増加している。〔図４〕



**２．スポーツ**

過去１年間に何らかの「スポーツ」を行った人は368万7千人で、行動者率は66.0%となっている。これは全国平均の63.0%を上回るものの、平成18年と比べると2.4%の減少となっている。行動者率は女性よりも男性の方が高いが男女とも平成18年より減少しており、男性の減少率が大きいことから男女差は縮小している。〔表２〕

表２　「スポーツ」の行動状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | 10歳以上推定人口　（千人） | 行動者数　（千人） | 行動者率　（％） |
| H23 | H18 | 増減 | H23 | H18 | 増減 | H23 | H18 | 増減 |
| **総数** | **5,584**  | **5,436**  | **148**  | **3,687**  | **3,717**  | **-30**  | **66.0**  | **68.4**  | **-2.4**  |
| 男 | 2,783  | 2,717  | 66  | 1,927  | 1,983  | -56  | 69.2  | 73.0  | -3.8  |
| 女 | 2,801  | 2,719  | 82  | 1,760  | 1,734  | 26  | 62.8  | 63.8  | -1.0  |
| 男女差 | -18  | -2  | -16  | 167  | 249  | -82  | 6.4  | 9.2  | -2.8  |

（参考）行動者率の全国順位

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | １位 | ２位 | ３位 | 千葉県の位置 | 全国平均 |
| 平成23年 | 東京都 | 68.6% | 滋賀県 | 67.9% | 埼玉県 | 66.9% | ５位 | 66.0% | 63.0% |
| 平成18年 | 神奈川県 | 71.8% | 埼玉県 | 69.5% | 滋賀県 | 69.1% | ５位 | 68.4% | 65.3% |

年齢階級別に「スポーツ」の行動者率をみると、10～14歳が87.3%と最も高くなっており、　　平成18年と比較すると、54歳までは行動者率が減少し55歳以上では増加している。〔図５〕

これを男女別にみると、男女とも10～14歳が最も割合が高い（男性93.0%、女性81.2%）が、35～44歳で唯一女性が男性を上回っている（男性64.4%、女性65.7%）。平成18年と比べると、最も増加しているのは、男性が75歳以上の10.0%、女性が65～74歳と75歳以上の11.5%と　　なっており、最も減少しているのは、男性が35～44歳の12.4%、女性が25～34歳の11.1%と　　なっている。〔図６〕





「スポーツ」の種類別の行動者率を男女別にみると、男女とも「ウォーキング・軽い体操」が　最も高く、上位３種類を平成18年と比較すると、「ウォーキング・軽い体操」を除いて行動率が減少している。特に、ボウリングは5%を超える減少となっている。〔表３〕

　また、年齢階級別にみると、10～14歳では「水泳」、15～24歳では「ボウリング」、25歳以上　では、「ウォーキング・軽い体操」が最も高くなっている。〔表４〕

表３　男女別、「スポーツ」の種類別行動者率の順位（平成２３年）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | １　　　位 | ２　　　位 | ３　　　位 |
| 男 | ウォーキング・軽い体操 | ゴルフ | ボウリング |
| 34.5%　（H18：34.1%　１位） | 15.9%　（H18：17.5%　３位） | 14.4%　（H18：20.5%　２位） |
| 女 | ウォーキング・軽い体操 | 水　泳 | 器具を使ったトレーニング |
| 43.5%　（H18：43.2%　１位） | 10.4%　（H18：13.0%　３位） | 10.1%　（H18：12.1%　４位） |

※女性の「ボウリング」は、平成18年は15.6%で２位だったが、平成23年は9.8%で５位。

表４　年齢階級別、「スポーツ」の種類別行動者率の順位（平成２３年）　　　　　※「その他」を除く

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | １　　　位 | ２　　　位 | ３　　　位 |
| 10～14歳 | 水　泳 | ジョギング・マラソン | ウォーキング・軽い体操 |
| 38.1%　（男：43.7%　女：32.2%） | 29.8%　（男：34.4%　女：25.0%） | 29.0%　（男：27.5%　女：30.6%） |
| 15～24歳 | ボウリング | ウォーキング・軽い体操 | ジョギング・マラソン |
| 31.0%　（男：33.2%　女：28.6%） | 30.8%　（男：25.4%　女：36.6%） | 20.8%　（男：24.6%　女：16.8%） |
| 25～34歳 | ウォーキング・軽い体操 | ボウリング | ジョギング・マラソン |
| 32.4%　（男：24.1%　女：41.2%） | 15.8%　（男：20.1%　女：11.2%） | 14.8%　（男：19.2%　女：10.3%） |
| 35～44歳 | ウォーキング・軽い体操 | ボウリング | 水　泳 |
| 35.0%　（男：27.5%　女：43.0%） | 15.0%　（男：16.3%　女：13.6%） | 14.1%　（男：15.0%　女：13.2%） |
| 45～54歳 | ウォーキング・軽い体操 | 器具を使ったトレーニング | 水　泳 |
| 42.9%　（男：35.1%　女：51.1%） | 13.8%　（男：11.4%　女：16.3%） | 13.0%　（男：17.9%　女：7.9%） |
| 55～64歳 | ウォーキング・軽い体操 | ゴルフ | 登山・ハイキング |
| 48.0%　（男：44.2%　女：51.7%） | 14.4%　（男：24.8%　女：4.2%） | 12.2%　（男：11.4%　女：12.9%） |
| 65～74歳 | ウォーキング・軽い体操 | ゴルフ | 登山・ハイキング |
| 50.9%　（男：50.2%　女：51.5%） | 11.5%　（男：20.7%　女：2.7%） | 10.0%　（男：12.1%　女：7.9%） |
| 75歳以上 | ウォーキング・軽い体操 | ゴルフ | 器具を使ったトレーニング |
| 32.7%　（男：39.5%　女：27.8%） | 6.2%　（男：12.7%　女：1.4%） | 5.2%　（男：5.2%　女：5.2%） |

**３．趣味・娯楽**

過去１年間に何らかの「趣味・娯楽」を行った人は481万2千人で、行動者率は86.2%と　　　なっている。これは全国平均の84.8%を上回るものの、平成18年と比べると1.3％の減少と　　　なっている。行動者率は男女ともに同率となり、女性で平成18年より1.8%減少したため、男女差は縮小している。〔表５〕

表５　「趣味・娯楽」の行動状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | 10歳以上推定人口　（千人） | 行動者数　（千人） | 行動者率　（％） |
| H23 | H18 | 増減 | H23 | H18 | 増減 | H23 | H18 | 増減 |
| **総数** | **5,584**  | **5,436**  | **148**  | **4,812**  | **4,755**  | **57**  | **86.2**  | **87.5**  | **-1.3**  |
| 男 | 2,783  | 2,717  | 66  | 2,398  | 2,363  | 35  | 86.2  | 87.0  | -0.8  |
| 女 | 2,801  | 2,719  | 82  | 2,413  | 2,392  | 21  | 86.2  | 88.0  | -1.8  |
| 男女差 | -18  | -2  | -16  | -15  | -29  | 14  | 0.0  | -1.0  | 1.0  |

（参考）行動者率の全国順位

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | １位 | ２位 | ３位 | 千葉県の位置 | 全国平均 |
| 平成23年 | 神奈川県 | 88.7% | 東京都 | 88.5% | 埼玉県 | 87.9% | ８位 | 86.2% | 84.8% |
| 平成18年 | 神奈川県 | 89.3% | 東京都 | 88.5% | 千葉県 | 87.5% | ３位 | 87.5% | 84.9% |

年齢階級別に「趣味・娯楽」の行動者率をみると、10～14歳が95.4%と最も高くなっており、平成18年と比較すると、75歳以上で4.2%と最も増加しており、25～34歳で3.9%と最も減少　　している。〔図７〕

これを男女別にみると、男女とも10～14歳が最も割合が高くなっている（男性96.1%、女性94.7%）。平成18年と比較すると、最も増加しているのは、男性が75歳以上の9.4%、女性が　　45～54歳の3.4%となっており、最も減少しているのは、男性が25～34歳と35～44歳の3.6%、女性が10～14歳の4.5%となっている。〔図８〕





男女別に「趣味・娯楽」の種類別の行動者率をみると、男女とも「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」の割合が最も高く、上位３種類を平成18年と比較すると、項目に大きな変化はないが、行動者率はそれぞれ下がっている。〔表６〕

また、年齢階級別にみると、10～14歳では「テレビゲーム・パソコンゲーム」、15～54歳では「CD・テープ・レコードなどによる音楽鑑賞」、55歳以上では、「園芸・庭いじり・ガーデニング」が最も高くなっている。〔表７〕

表６　男女別、「趣味・娯楽」の種類別行動者率の順位（平成２３年）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | １　　　位 | ２　　　位 | ３　　　位 |
| 男 | ＣＤ・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 | ＤＶＤ・ビデオなどによる映画鑑賞 | テレビゲーム・パソコンゲーム |
| 46.0%　（H18：55.6%　１位） | 40.0%　（H18：49.7%　２位） | 39.6%　（H18：40.8%　４位） |
| 女 | ＣＤ・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 | 趣味としての読書 | 「ＤＶＤ・ビデオなどによる映画鑑賞」「映画鑑賞（DVDなどは除く）」 |
| 51.7%　（H18：56.1%　１位） | 48.4%　（H18：50.9%　２位） | 42.7% | （「DVD」　H18：46.2%　３位）（「映画」　H18：45.3%　４位） |

表７　年齢階級別、「趣味・娯楽」の種類別行動者率の順位（平成２３年）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | １　　　位 | ２　　　位 | ３　　　位 |
| 10～14歳 | テレビゲーム・パソコンゲーム | ＣＤ・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 | ＤＶＤ・ビデオなどによる映画鑑賞 |
| 79.8%　（男：86.8%　女：72.4%） | 64.2%　（男：55.8%　女：73.1%） | 57.8%　（男：55.6%　女：60.1%） |
| 15～24歳 | ＣＤ・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 | テレビゲーム・パソコンゲーム | ＤＶＤ・ビデオなどによる映画鑑賞 |
| 70.9%　（男：64.6%　女：77.7%） | 67.4%　（男：70.2%　女：64.4%） | 59.4%　（男：52.1%　女：67.3%） |
| 25～34歳 | ＣＤ・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 | ＤＶＤ・ビデオなどによる映画鑑賞 | テレビゲーム・パソコンゲーム |
| 63.0%　（男：58.1%　女：68.2%） | 59.2%　（男：53.8%　女：64.9%） | 58.1%　（男：62.5%　女：53.4%） |
| 35～44歳 | ＣＤ・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 | ＤＶＤ・ビデオなどによる映画鑑賞 | 遊園地、動植物園、水族館などの見物 |
| 59.4%　（男：50.8%　女：68.7%） | 54.8%　（男：50.0%　女：60.0%） | 51.8%　（男：42.0%　女：62.2%） |
| 45～54歳 | ＣＤ・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 | ＤＶＤ・ビデオなどによる映画鑑賞 | 趣味としての読書 |
| 58.8%　（男：56.2%　女：61.4%） | 54.0%　（男：52.4%　女：55.7%） | 52.0%　（男：44.6%　女：59.8%） |
| 55～64歳 | 園芸・庭いじり・ガーデニング | 趣味としての読書 | ＣＤ・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 |
| 46.2%　（男：37.8%　女：54.3%） | 43.7%　（男：40.2%　女：47.2%） | 39.1%　（男：38.2%　女：40.0%） |
| 65～74歳 | 園芸・庭いじり・ガーデニング | 趣味としての読書 | 映画鑑賞（DVDなどは除く） |
| 49.5%　（男：45.5%　女：53.3%） | 34.3%　（男：34.8%　女：33.7%） | 25.4%　（男：24.7%　女：26.2%） |
| 75歳以上 | 園芸・庭いじり・ガーデニング | 趣味としての読書 | ＣＤ・テープ・レコードなどの音楽鑑賞 |
| 35.3%　（男：36.8%　女：34.2%） | 21.6%　（男：23.5%　女：20.3%） | 14.0%　（男：16.4%　女：12.3%） |

**４．ボランティア**

過去１年間に何らかの「ボランティア」を行った人は144万9千人で、行動者率は26.0%と　　　なっている。これは全国平均の26.3%を下回るものの、平成18年と比べると1.9％増加しており全国平均に近づいている。行動者率は男性よりも女性の方が高く、男女とも平成18年より増加　しているものの、女性の増加率が大きいことから男女差は拡大している。〔表８〕

表８　　「ボランティア」の行動状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | 10歳以上推定人口　（千人） | 行動者数　（千人） | 行動者率　（％） |
| H23 | H18 | 増減 | H23 | H18 | 増減 | H23 | H18 | 増減 |
| **総数** | **5,584**  | **5,436**  | **148**  | **1,449**  | **1,311**  | **138**  | **26.0**  | **24.1**  | **1.9**  |
| 男 | 2,783  | 2,717  | 66  | 656  | 634  | 22  | 23.6  | 23.3  | 0.3  |
| 女 | 2,801  | 2,719  | 82  | 793  | 676  | 117  | 28.3  | 24.9  | 3.4  |
| 男女差 | -18  | -2  | -16  | -137  | -42  | -95  | -4.7  | -1.6  | -3.1  |

（参考）行動者率の全国順位

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | １位 | ２位 | ３位 | 千葉県の位置 | 全国平均 |
| 平成23年 | 山形県 | 35.3% | 島根県 | 34.8% | 鹿児島県 | 34.4% | ３２位 | 26.0% | 26.3% |
| 平成18年 | 鳥取県 | 34.5% | 滋賀県 ・ 島根県　（同率２位） | 34.0% | ４０位 | 24.1% | 26.2% |

年齢階級別に「ボランティア」の行動者率をみると、45～54歳が33.5%と最も高くなっており、平成18年と比較すると、55～64歳、65～74歳を除いて増加しており、15～24歳が6.6%と最も増加している。〔図９〕

これを男女別にみると、男性では45～54歳の30.7%、女性では35～44歳の41.6%が最も高くなっており、64歳までは男性よりも女性の割合が高い。平成18年と比較すると、最も増加　しているのは、男性が15～24歳の6.8%、女性が35～44歳の9.8%となっており、最も減少しているのは、男性が35～44歳の7.2%、女性が65～74歳の4.0%となっている。〔図１０〕





男女別に「ボランティア」の種類別の行動者率をみると、男性では「まちづくりのための活動」が10.1%で最も高く、女性では「子供を対象とした活動」が11.8%で最も高い。平成18年と比較すると、女性の「子供を対象とした活動」が5.3%と最も増加している。〔図11-1・11-2〕





「ボランティア」の種類別の平均行動日数をみると、「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」が42.2日と最も多く、平成18年と比較すると、「障害者を対象とした活動」が13.7日と　最も増加している。



〔図１２〕

**５．旅行・行楽**

過去１年間に何らかの「旅行・行楽」を行った人は414万2千人で、行動者率は74.2%と　　　なっている。これは全国平均の73.2%を上回るものの、平成18年と比べると4.7％の減少と　　　なっている。行動者率は男性よりも女性の方が高いが男女とも平成18年より減少しており、　　男性の減少率が大きいことから男女差は拡大している。〔表９〕

表９　「旅行・行楽」の行動状況

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 　 | 10歳以上推定人口　（千人） | 行動者数　（千人） | 行動者率　（％） |
| H23 | H18 | 増減 | H23 | H18 | 増減 | H23 | H18 | 増減 |
| **総数** | **5,584**  | **5,436**  | **148**  | **4,142**  | **4,291**  | **-149**  | **74.2**  | **78.9**  | **-4.7**  |
| 男 | 2,783  | 2,717  | 66  | 2,016  | 2,121  | -105  | 72.4  | 78.1  | -5.7  |
| 女 | 2,801  | 2,719  | 82  | 2,126  | 2,170  | -44  | 75.9  | 79.8  | -3.9  |
| 男女差 | -18  | -2  | -16  | -110  | -49  | -61  | -3.5  | -1.7  | -1.8  |

（参考）行動者率の全国順位

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | １位 | ２位 | ３位 | 千葉県の位置 | 全国平均 |
| 平成23年 | 滋賀県 | 79.0% | 神奈川県 | 78.3% | 愛知県 | 77.6% | １５位 | 74.2% | 73.2% |
| 平成18年 | 神奈川県 | 82.1% | 滋賀県 | 81.8% | 東京都愛知県 | 81.7% | ７位 | 78.9% | 76.2% |

年齢階級別に「旅行・行楽」の行動者率をみると、10～14歳が85.0%と最も高くなっており、平成18年と比較すると、75歳以上で4.0%の増加となっているがその他は減少しており、特に25～34歳で9.0%と最も減少している。〔図１３〕

これを男女別にみると、男女とも10～14歳が最も高い割合となっている（男性85.1%、女性84.8%）。平成18年と比較すると、最も増加しているのは、男女とも75歳以上（男性3.7%、女性4.0%）となっており、最も減少しているのは、男性が25～34歳の11.4%、女性が55～64歳の６.7%となっている。〔図１４〕





男女別に「旅行・行楽」の種類別の行動者率をみると、男女とも「行楽（日帰り）」が最も高く（男性52.7%、女性60.3%）、「行楽」「観光」「帰省・訪問など」で男性よりも女性の割合が高い。平成18年と比較すると、女性の「観光旅行（海外）」を除いて減少している。〔図15-1・15-2〕





「旅行・行楽」の頻度別に行動者率をみると、「年10回以上」が23.9%と最も高く、平成18年と比較すると、「年3回」「年10回以上」で増加している。〔図１６〕

